第 100 回大腸癌研究会 病理委員会 議事録

日時：令和 6 年 1 月 25 日（木）午前 10：00～11：30

場所：浜松町コンベンションホール 5 階 第 1-B 会場（メインホール B）

議長：菅井 有

出席者（敬称略）：新井富生、市川一仁、上杉憲幸、落合淳志、大倉康男、河内洋、小嶋基寛、岸本光夫、坂本直也、菅井有、杉本亮、関根茂樹、牛久哲男、八尾隆史、宮沢善夫、齋藤彰一、下田将之、加藤洋、門松雄一朗、大石琢磨、根本直彦、野田恵祐、館川彩佳、石黒信吾、岩谷啓一、山田一隆、中原健太、森永友紀子、井上透、村田幸平、落合大樹、池田哲明、Yoshiro Itatani、Kohei Ueno、佐藤 美信（35 名：on site 32 名、web 3 名）

会議内容

1. 取扱い規約に記載する虫垂の項について（岸本）

岸本先生より、取扱い規約に記載する虫垂の項目の原稿案について説明があった。LAMN の組織学的特徴の説明では、WHO の肉眼所見の記載を取扱い規約に盛り込むべきかが議論され、記載する事となった。改訂案に示された虫垂粘液性腫瘍のグレードについても議論がなされた。虫垂の項目については、担当の八尾先生と岸本先生で再度協議し、意見の一致した最終案をメール審議とする事となった。

2. 神経内分泌腫瘍の組織分類および T 分類について（河内）

前回の経緯の説明がなされ、Carcinoid tumor の用語を残すならば、残す理由の説明を追加し、Carcinoid tumor/ NET、および内分泌細胞癌/ NEC は併記することで委員会決定した。NEN、NET、NEC の日本語表記について、種々の意見がみられ、NEN の日本語表記については情報収集し、引き続き検討する。NET の T 因子については TNM 第 8 版に準じる。また、腫瘍径の最大径測定について説明を加える事となった。

3. MM 浸潤癌の取り扱いについての再提案（河内）

TNM 分類で MM 癌の取り扱いについて経緯の説明があり、委員の意見や海外の意見の説明がなされた。pTis の説明について現行規約のままでいくか、“粘膜内（粘膜固有層および粘膜筋板）にとどまる癌（すなわち粘膜内癌）”の記載を加えるか、種々の意見があり議論がなされた。本案件については、継続審議とする方針となった。

4. 追加： 簇出、PDC、最低分化度、DR アトラスの HP 公開について（河内）

プロジェクト研究開始の説明がなされ、参加施設病理医が参照しやすい様にアトラスをホームページ上への記載をする事で承諾された。